

# 成幸庶民

大谷正光

## 【プロローグ】

「っばい勉強していい学校に入っていい会社に勤めなさい。そして一度就職した会社では仕事で嫌なことがあっても決して辞めてはいけな  
いものなの。」

それは根性がない人間のすることなの。

定年までコツコツ働いて年金をもらえるまで一生懸命頑張りなさい」

僕は両親からそう教えられてその通りに人生を過ごしていた。

ところがそもそも学校のお勉強がとにかく嫌だった。

毎朝同じ時間に学校に行って、同じ机に座り、同じ先生の対して変わらない毎日の授業。

しかも高校生になって微分積分が出てきたときは「これって大人になってから使うことある計算なのかな？」  
とずっと疑問に思っていた。

漢文の勉強は僕にはほぼ古代文明の解析としか思えず、まったく頭に入らなかった。

物理が登場した時はもはや僕の脳は完全に機能停止のフリーズ状態に陥ってその後完全にクラッシュしてしまった。

そして英語については将来の大切さとはとっても理解していたのだけれども、文法を学ぶ意味があまりよくわからずとにかく丸暗記した。  
テストの数分前まで参考書を開いて、覚えた文法を忘れずに書き込むのが唯一の僕の戦略だった。

外人さんって文法って意識しているのだろうか？

そんなこんなでどの教科も全然頭に入らなかった僕は、いっぱい勉強したけど、いい学校にすら入れずに、∞流の大学に進学することになってしまった。

すでにその時点で僕は両親から人生負け組のレッテルを半分貼られていた。

そして大学では遊び放題。

僕は大学というところは、いっぱい勉強したご褒美としてたくさん遊べる学校だと完全に思い込んでいたのだ

授業にはほとんど行かず、バイトに明け暮れて稼いだお金は何に使ったのかわからないうちに消えていった。

今でもいったいどうやって卒業できたのか覚えておらず、未だに留年して取り残されている夢を見ることすらあるほど。

そんなあつと言う間の4年間はずっと就職活動

∞流大学を卒業しつつあった僕はいい会社を探した。

ソニー、トヨタ、シャープなどの企業はエリートたちがいく大人気企業で∞流大学の僕にはとても手が届かなかった。

銀行や証券会社、保険会社は金融や経済を勉強してきたプロが行く企業で、説明会ではいかにも賢そうな連中が並んでいた。

そんな中僕は∞流大学なりに入れるいい会社をいくつか受けた。

そしてUターン就職で地元では有名な高級旅館に就職した。

理由は地元では∞流大学とはいえ、田舎では学歴としてはそう低くなかったから優位性があると考えたのだ。

プロ野球の一軍ではまったく活躍できないけれども、∞軍なら名プレイヤーになれる

そんなせこい考えだったのだ。

いっぱい勉強もできず、いい学校にも入れず、一流会社にも就職しなかった僕は完全なる負け組だ。でもせめて出世競争だけは負けなないと奮起して新入社員一年目はがむしやりに頑張った。

旅館業はとにかく生活が不規則。

シフトは早朝6..00勤務もあれば、夜勤で一炊もできない日もある。

慢性的な睡眠不足でいつもお腹の具合が悪いのだ。

毎日12時間労働を超えても残業はつかない。休日出勤は当たり前

それでもお給料は18万円足らず・・・バイトしまくっていた学生時代よりも少なくなってしまった

先輩からは お前何度言ったらわかるんだよ!」と毎日のように罵声を浴び

上司からはきついノルマが設定され

あれをしろ、これをしろと次々と命令が下される。

失敗すれば厳しく言及され、とにかく出勤するのも嫌になるばかり

あくおかんが言っていたことってこういうことなんだ・・・」と妙に納得した。

このまま僕は定年までここで働くしかないのかな・・・」と半ば絶望した。

「いつまでたってもお金も無いしどうして僕はこんなに不幸な運命の元に生まれちゃったのかな・・・」  
そんなことばかりを考えていた。

しかし僕が仕事をしていた旅館はなんせ国内では有名な高級旅館。  
宿泊客はお金持ちが本当に多いのだ。

お正月は毎年の常連客で満室。

中でも毎年最上階のスウィートルームに宿泊するある会社の会長はとにかくお金持ちだった。ある時僕はその会長の支払いを担当した。

3日間で450万円。

ポーンと現金支払いだった。

宿泊客はクラウンやシーマが大衆車。

年配のお金持ちはベンツやBMWにジャガー。若いお金持ちはボルシエやフェラーリが多かった。

玄関でお預かりしたこれらの高級車はフロントマンである僕たちが駆け足で出迎え、お預かりして駐車場まで止めてくるのだ。そんなお金持ちに毎日たくさん触れていて僕がいつも思っていたことは

「どうやったらあんな風にお金持ちになれるんだろう？」

お金持ちを毎日相手にする仕事をしている自分は貧乏人というジレンマ。

僕は毎日200円の社内食堂で、お客様は20,000円のお料理。

僕の車は中古で買った40万円の壊れかけのRX7、お客様は1000万円のピカピカのベンツ

30歳や60歳になれば僕もあんな風にお金持ちになれるのだろうか？

でも僕の上司であった副支配人はどう見てもそれほどお金持ちには見えなかったし、いつも僕が失敗した責任を負って会議では社長からこげおろされて大変だったのだ。

ある時などは社長に右膝に蹴りを入れられて、足を引きずっていたこともあった・・・

「大変そうだな〜出世したくないな〜・・・」

と思い始めたのもその頃だった。

いっぱい勉強もできず、いい学校にも入れず、一流企業にも入れず、嫌いな仕事はとて我慢できそうになかった僕は23歳にして人生を諦めそうになってしまった。

唯一の救いは長野にスノボしに行った時に出逢った超かわいい彼女だけだった。

石川県と愛知県での遠距離恋愛だったから、とにかく話し方と声がかわいい彼女の声を聞いていたくて毎日のように長電話していた。

転職して履歴書に汚点をつけてしまえば、僕の人生にとって大きなマイナスポイントになる。

彼女を幸せにする為には会社は絶対に辞める訳にはいかなかった。たとえどんなにストレスが大きくて、安月給であったとしても・・・

出会ってから一年半が過ぎ遠距離恋愛が続いていたある日、彼女から電話が鳴った。

電話の向こう側で彼女がシクシクと泣いているのがわかった。

忙しすぎる仕事でなかなか会えない日が続き2ヵ月も会えなかった彼女は寂しさが限界で、今にも別れ話になりそうだということがすぐにはわかった。

「この彼女を失えば一生後悔することになる！」僕ははっきりと心の声を聞いた。

ポロポロのRX7数日分の着替えを積み込んで、なけなしの貯金1万円だけを財布に入れて僕は土曜日の深夜に実家を出発した。北陸自動車道をぶっ飛ばし、朝日が見えてきた。そして気付いた時、愛知県の彼女の自宅の前にいた。

あれから10年

僕は偶然にもある機会で古巣であるこの高級旅館に宿泊することになった。愛車のBMWは出迎えのフロントマンに預けて。

序章 成幸庶民

第1章 牢獄の人生

時間の鎖

仕事の鎖

友人の鎖

健康の鎖

お金の鎖

家庭の鎖

そして人生が鎖につながれる

第2章 旅立ちの決意

シナリオは用意されている

どん底が本当の人生の始まり。

人それぞれのどん底体験から得ること

絶対絶命の危機にどう動くか

必ず見ている人がいる

神様からのお試し

第3章 変化の予兆

決意した瞬間から変化が始まる。

必要な情報がどんどん引き寄せられる

やりたいことが次々と湧き上がる

出会う人が変わり始める

## 第4章

お金の使い方が変わり始める  
メンターとの出会いはこの時期  
スピリチュアルの目覚め  
悪徳宗教家？

ついに洗脳集団に

成功するためなら洗脳もOK

様々なスピリチュアル

ご先祖様と観音様が現れた！

神社仏閣めぐりのすすめ

スピリチュアルの扱い方

起業

「いつか起業するんです」の人々

えいや！」で飛び込まない

夢はあるけどそんなに甘くない

起業ネタはどこにでも転がっている

段取り∞割

起業は起業する前に成功確率が決まる

## 第5章

ビジネスで成功する

なにはともあれ時流が大事

なにはともあれインターネット

なにはともあれマーケティング

なにはともあれ売れる商品

なにはともあれお客様



## 第7章

ダークサイド

お金だけ稼いでも心は乾く  
人間失格

一時の成功がアダとなる

その時妻はあなたを止める

消えていった成功者たち

妻はブレイキ役

幸せな家庭

## 第8章

あまりにも多い仕事で成功して家庭で失敗する成功者たち

警察のお偉いさんの息子が暴走族？

仕事と家庭は両立できる

夫婦は二人の役割分担で一つの器をつくる

ファミリーデーをつくる

プレゼントを贈る

## 第9章

お金の愛される

何も知らずにダダ漏れ家計

見栄の為の買い物

消費・浪費・投資

お金さんに働いてもらう

お金への罪悪感を手放す

お金さんと友達になる

あとがき

# 序章

## 成幸庶民

あなたは成功者というどんなイメージをお持ちでしょうか？

ベンツやBMWに乗って、時計は金びかのROREXでスーツはビシっとしたアルマーニで大邸宅に住んでいる起業家。豪華な宝石をたくさんはめて、煌びやかな洋服にゴージャスなヘアースタイルと高級エステ

確かに彼らは富裕層かもしれませんが。

ビジネスや仕事では成功してお金はたくさん得たのかもしれませんが。お金持ちと結婚してセレブになったのかもしれませんが。

しかし僕が見てきたそういう成功者たちやセレブは決して素敵だとは思いませんでした。

なぜならそういった彼らの多くは他人との比較でより金持ちになろうと殺伐とした競争の中で必死に頑張っているからです。

お金は見栄や権力の象徴であり、彼らにとって人の価値は稼ぎの金額によって決まるのです。

またこのようなタイプの成功者たちはほとんどが家庭は崩壊しているものです。

ビジネスや仕事に明け暮れた結果、妻や子供たちはなおざりにされ、育児の悩み事やその日あった子供の成長なども夫と分かち合うこともできずにたった一人で家に取り残された妻はどんどん心が離れてしまうのです。

いくら高額な宝石や海外旅行に連れて行ったとしても、そこに夫婦で育児の喜びや会話を分かち合う姿勢がなければいずれ奥さんは心を閉じてしまどこかへ行ってしまふことでしょう。

それが健康面でも精神面でもダメージとなり、彼らは一人孤独にならなるお金を追い求めて行きつくことのない成功を追いかけているのです。

一方でかつての僕のように会社で一生懸命頑張ってコツコツ働いてもまったく豊かになれない生活は本当に苦しいものです。

スーパーの食材を数円でも安いものを買う為に家計をやりくりして、少なくなったボーナスは住宅ローンの返済で消えていく。

かつては大企業は安心とされ、親戚や近所の人にも「すごいね」と言われた会社はもはや連続赤字で将来は安心どころか、いつストラにされるかわからないという不安でいっぱい。

かといって転職する勇氣も無いし、今の会社を辞めるのもとっても怖いもの。

お金持ちにはなりたいたいけれども自分にはそんな才能もないし、経験もないからできそうにないし・・・  
まして子供がいるのにとっても人生一か八かの勝負をするわけにはいかない。

人生はこんなものだと諦めて定年の65歳までストレスの多い生活に我慢した暮らしを続けるのか・・・

しかしそれでは妻や子供たちに幸せな生活をさせてあげられる日はいつになることでしょうか？

そんな中「幸せな小金持ち」というライフスタイルを世間に投げかけた本田健さんは幸せにお金持ちになるというスタイルを教えてくださいました。

僕もかなり衝撃を受けて、まさに本田健さんのこの世界観を理想に掲げて勉強してきました。

そして家庭とビジネス、お金と幸せを調和したライフスタイルを自分なりに実現してこることができました。

本田健さんから学んだことによって、僕のビジネスは全国に広がり、収入は会社員時代の10倍となり、憧れだったBMWにも乗れるようになりました。

とは言ってもまだまだ成長途上の庶民です。

しかし庶民出身でありながら、少しだけ幸せな小金もちの生き方が実現できたのではないかと感じます。

かつてはフラフラになって仕事から帰ってきて、教時間だけ寝て飛び起きて会社に行くという毎日から、今は毎朝自由な時間に起きて新聞を

読みながらゆっくりとコーヒーを愉しみ、素敵な仲間たちと共にわくわくする仕事の計画を立てる。その夢を一つ一つカタチにしていこうという毎日。

18..00には家に帰ってからipod聞きながらジョギングして、19..00には子供たちと学校であったことを会話しながら家族で妻の手料理をいただく。

休日は家族で公園や遊園地に出かけて楽しみ、たまには美味しいお店で外食を楽しむ。

夜は子供たちをお風呂に入れて歯磨きしてから絵本を読んで寝かしつけながら、自分も一緒に娘のいい香りに包まれながら眠りにつく。

いたって普通の毎日がとっても幸せなこと。

別に海外リゾートで一年中暮らそうとも思わないし、一歳の息子を連れて高級ホテルのスイートに泊まりたいとも思わない。ガソリンをばかすか食って人家族で乗れないフェラーリは必要性すらない。

金ピカのROREXだって十分買えるけど、200万円も時計にお金をかけるのはアホらしい。時間がわかればいいんだから

でも出張の時はリッツカールトンで安らぎのひとつ時を堪能するし、好きなジャケットだってエルメスでできる。

その割に家ではユニクロのスイエットで、お昼はカップラーメン。

マクドナルドでは必ず携帯クーポンで節約し、携帯はもったいないので未だに初代iphone。好きなことにはお金をかけるけど、必要ないものは買わないし、豪遊するのもアホらしい。

少々小金があっても感覚はいたって庶民のまま。

見栄や贅沢よりも自由と家庭を大切にし、成功よりも成幸を目指す。

庶民出身 負け組上がりの僕が見つけた

誰にでも実現できるそんな第②の道はいかがでしょうか？

このストーリーは全て実話に基づいて制作しております。

現在執筆中ですが著者が2009年から開設したブログは会社員時代から全てのその軌跡が書き留められています。  
自己実現ブログ <http://jikojitugen.livedoor.biz/>